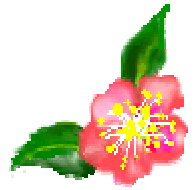


船橋 YMCA 通信



No.10 2003年1月1日

編集 千葉YMCA船橋地域デポ運営委員会 発行人 榎 一光
〒273-0825 船橋市夏見6-6-6 日本基督教団船橋教会内
電話：(047)425-6366 F A X：(04)7145-3403



あけまして

おめでとうございます

今年が皆様にとって良い年になることをお祈りいたします。

千葉YMCA船橋地域デポ運営委員一同

昨年の大きな足跡

昨年11月に千葉YMCAは、創立以来、最も大きな出来事に遭遇しました。それは、千葉市が進めている「千葉市少年自然の家(仮称)整備事業」の内、施設の運営を2005年から15年間担当することになったことです。

千葉市が2005年春に開設予定の「少年自然の家」は、施設の建設と管理・運営を民間に委託するPFI方式で実現されます。千葉市が行った競争入札で、千葉YMCAの入ったグループがこの案件を落札したものです。

注) PFI : Private Finance Initiative

昨年の小さな足跡

船橋YMCAは、昨年の7月からこどものアトリエ「あおぞら」を新しいプログラムとして始めました。幼児、小学生を対象とした創作教室で、11月9日は6名、12月14日は5名が参加しました。今年、本プログラムを本格的に展開したいと思っています。

もうひとつの新プログラム、「さわやかフィットネス」は参加希望者が少なかったため実施できませんでした。参加者の年齢層を広げられるように内容の見直しを図り、再募集する予定です。

ゆきんこキャンプ

ゆきんこキャンプは小学生を対象としたスキーキャンプで、今回は31名のメンバーが参加しました。日程は12月26日～29日の3泊4日で、場所は尾瀬戸倉スキー場に行きました。

以下は、大谷ディレクターの報告です。



今回のキャンプは、柏での集合時刻を大幅に早め、初日に板あわせとレッスングループ分けを行うようにしました。現地到着は午後2時。初心者には、雪遊びで雪に慣れ親しむことから開始。経験者は、スキーの装着と坂のぼりに手間取ったが、最終のリフトに何とか間に合って滑ることができた。夜は全体でゲームやグループタイムを設けて、メンバーとリーダーが親睦を深めました。



1日目と2日目は吹雪で、スキーを楽しみにし

ていた子どもたちには少々気の毒であったが、3日目のスキー最終日は晴天にめぐまれ、みんな思い思いの滑りを楽しんでいた。午後からはリフトに乗れる子どもたちはワッペンテストを受けたが、テストと聞くと緊張してしまう子どももいたようで、何人かはいつもの滑りが出来ていなかった。

本当に滑りたい子どもにとっては3泊4日という日程は、短かく感じたようで、最終日にスキー場を去るときは名残惜しそうであった。

“わんぱくクラブ”の記録

“わんぱくクラブ”の11月の例会は、11月17日に参加者15名で昭和の森(千葉市緑区)へ行きました。



京成津田沼駅を出発後、京成・JR線を利用し、土気駅よりバスを乗り継いで、昭和の森へ到着。すぐに昼食をとり、グループごとに行動。当日は11月中旬にしては寒い日であったが、子どもたちは元気にサイクリングとフィールドアスレチックを楽しんでいました。道具を使って飽きることなく運動することが出来るので、多少寒い日の外出には適した場所でした。昭和の森のサイクリングコースは多少の起伏があり、大人でも2～3周すると適度な運動になるので、お勧めです。



船橋教会のバザー

11月4日(月)に開かれた日本基督教団船橋教会のバザーに船橋YMCAとして参加しました。今回もリーダーが、売り子役と会場にきた子どもたちとのゲーム指導役の両方をこなしてくれました。



皆様から献品していただいた品物やYMCAグッズの売れ行きは好調で、売り上げは15,790円になり、内1,600円を船橋教会に寄付しました。このバザーの益金14,190円も、YMCAの国際協力募金に充てられました。

第6回チャリティーラン

第6回千葉YMCAチャリティーランは、2003年5月17日(土)に、船橋運動公園で開催の予定です。この催しは、障害のある子どもたちを励ますための寄付を集めるイベントであると同時に地域交流、健康増進のイベントでもあります。

これまでの障害のある子どもたちへの支援金の合計は330万円に達しています。また、参加企業・団体は延べ96に達しています。

チャリティーランの準備作業はすでに始まっていて、過去の開催の報告(第4回、第5回)と第6回の申し込み用紙は千葉YMCAのホームページ(<http://www.ymcajapan.org/chiba/>)に掲載されていますので是非ご覧ください。

編集後記

この船橋YMCA通信は、紙ベースの情報発信ですが、インターネット上でも電子的に情報発信したいと思い、過去の通信は千葉YMCAのホームページに掲載しました。今年こそ船橋YMCAのホームページを作りたいと思っています。(槇)